

編集後記

『立教映像身体学研究』第2号をお届けいたします。まだ船出したばかりのこの紀要を、引き続き温かく見守ってくださいますよう、お願い申し上げます。

今年度は、立教大学の映像身体学科、及び映像身体学専攻創設時からのメンバーとして、「映像身体学」を牽引なさってきた宇野邦一教授がご退職される年に当たり、「特集：宇野邦一教授を送る」を組みました。宇野先生ご自身にお寄せいただいた「アルトー論から「器官なき身体」まで」は、アルトーがいかに宇野先生に食い込んでいるか、そして映像身体学にとっても核となる思想家、ジル・ドゥルーズと宇野先生との出会いがいかなるものだったかを窺い知ることのできる、貴重なテキストとなっています。先生の略年譜や主要業績とあわせてご覧ください。

今号には6編のエントリーがあり、そのすべてが投稿され、前回と同様に複数の査読者と編集委員会による査読を経て、最終的に2編の論文を掲載することになりました。今回は掲載を見送ったもののなかにも、力強く芽吹こうとするものがありましたので、再投稿を期待します。私たちは、映像身体学という思考の領域を拓く、意欲的で冒険的な論考の投稿を、歓迎しています。

(y.h.)